

東京都獣医師会
学校飼育動物
獣医師養成講座

モルモットについて

2021年1月31日

田向健一
田園調布動物病院

1

分類

綱： 哺乳綱
目： ネズミ目（齧歯目）
亜目： ヤマアラシ亜目
科： テンジクネズミ科 Caviidae
属： テンジクネズミ属 *Cavia*
種： モルモット *C. porcellus*



ペルーテンジクネズミが起源。インカ帝国で『クイ』という名で食肉用として家畜化。現在でも食肉用として、野菜くずなどを与えて台所の周りなどで飼育される。味はウサギや鶏のもも肉に似ているといわれる。

2



イングリッシュ

アビシニアン

ペルビアン

スキニーギニアピッグ

3

モルモットの特徴

- 雄：900～1,200g
- 雌：700～900g
- 寿命：6～8年
- 薄明薄暮性
- ビタミンCが体内合成できない
(ブドウ糖→アスコルビン酸：L-グルラクソン)
- 食糞行動
- 鳴くことができる

4

生理学的参考値

- 性成熟：雄3か月、雌2か月
- 非季節性、多発情
- 繁殖周期：15～17日
- 排卵：自然排卵
- 妊娠期間：59～72日（平均68日）
- 早成性
- 産子数：1～13（通常2～4）
- 出生時の体重：70～115g
- 離乳：21日（180g）
- 体温：37.2～39.5℃
- 心拍数：240～310回/分



5

飼育

- 適温18～26℃
- 繁殖目的の場合、雄1に対し雌1～10
- 若齢時に嗜好が決定する
- モルモット専用ペレット（アスコルビン酸10～30mg/kg）
- 牧草（不断給餌）
- 新鮮な野菜類

6



7

特徴

- 完全草食動物
- 切歯、臼歯ともに常生歯
- 腹腔の1/3を盲腸が占める、繊維の分解発酵
- 食糞を行う
- 雌雄で糞の形状が異なる

モルモットの消化管模式図
(三輪, 林 2016)

8

特徴

- 雌雄ともに鼠径部に一對の乳頭
- 前肢は指4本、後肢は指3本

前肢 後肢

9

特徴

- 雄は陰茎骨を持つ
- 副生殖器（前立腺、精囊腺、凝固腺、尿道球腺）が発達

雄モルモットの生殖器
(三輪, 林2016より引用)

10

モルモットの診察

- 診察台にバスタオルを敷く
- 口腔内検査、腹部触診、体表のチェック
- キューキュー鳴く
- 短時間で終わらせる（ストレス軽減）

11

モルモットへの抗生物質

原則的に経口投与は避けるべき抗生物質

<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陽性細菌を標的とする薬剤 ・リンコマイシン ・クリンダマイシン ・エリスロマイシン ・セファロスポリン 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陰性嫌気性菌を標的とする薬剤 ・アンピシリン ・アモキシシリン ・セファロスポリン ・ペニシリン
---	--

安全と考えられている抗生物質

トリメトプリム-サルファ剤
ニューキノロン系
クロラムフェニコール
テトラサイクリン系

12

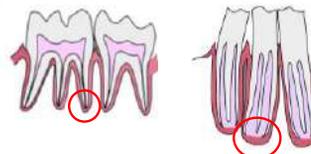
歯科疾患

- 常生歯
- 非常に多くみられる
- ウサギとは異なる病態
- 一旦罹患すると根治が難しい

13

常生歯

- 歯式 1 0 1 3
1 0 1 3
- 切歯、臼歯すべて生涯にわたり伸長



有歯根歯

無歯根歯

14

モルモットの顎関節

- 顎関節を垂脱臼させて、下顎と上顎の前進と後退で咀嚼
- 1分間に120回以上動かす。
- 唾液中にアミラーゼを含み、植物を長時間、咀嚼している間も消化を助けている。



15

切歯

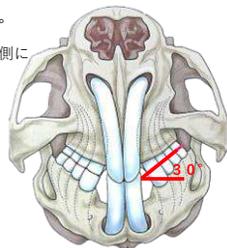
- 白い切歯を持つ
- 上顎切歯が短く、下顎切歯は長い



16

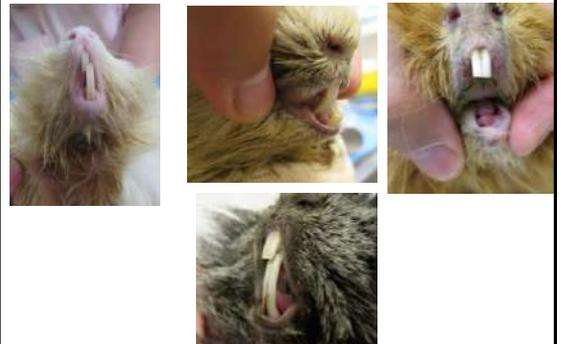
臼歯

- 咬合面は水平約30°の角度
- 歯根は湾曲
- 上顎臼歯列は、下顎臼歯列よりも広い。
- 咬合面の全体が咬耗し、歯冠を削る
- 不正咬合では、上顎は頬側、下顎は内側に



17

切歯の不正咬合



18



19



20



21



22



23



24

強制給餌



各社草食動物用流動食
(左からベジタブルサポート、MSライフケア、ハービケア)

先を切って炙った
1mlツベルクリン
シリンジ

25

消化管うっ滞/鼓腸症

原因

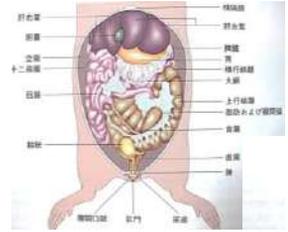
- 食物繊維不足、高タンパク、高炭水化物による胃腸の異常発酵、歯牙疾患、ストレス、運動不足

症状

- 食欲不振
- 排便減少、停止

検査

- X線検査



26

正常X線像



27

鼓脹症のX線像



28

消化管うっ滞・鼓腸症

治療

水和および胃腸蠕動運動亢進を中心とした治療

処方例

乳酸リンゲル	50-80ml/kg
モサブリド	1-3mg/kg
メトクロプラミド	0.5mg/kg
ファモチジン	1mg/kg
アスכולビン酸	100mg/kg
適度な運動	
強制給餌	

29

皮膚疾患

- エキゾチック動物の中では皮膚疾患は多いほう？
- 掻痒、脱毛、鱗屑などの症状が多い



腰部臭腺

耳介尾側の無毛部

30

疥癬

- モルモットセンコウヒゼンダニ (*Trixacurus caviae*)

症状

- 痲癢や自傷による外傷、鱗屑
- 強い掻痒

検査

- 皮膚掻爬検査

治療

- イベルメクチン0.5~0.6mg/kg
1週間おき2~3回
- セラメクチン (レボリューション猫用)
半量を2週間おき2~3回



31

皮膚糸状菌症

- Trichophyton mentagrophytes*
- Microsporum canis*

症状

- 痲癢や痲癢
- 限局性リング状の脱毛

検査

- 真菌培養検査

治療

- イトラコナゾール5mg/kg, sid, 4週間以上



32

その他の外部寄生虫

- モルモットツツキダニ (*Chirodiscoides caviae*)
- ガビアハジラミ (*Glicicola porcelli*)

症状

- 掻痒は弱い

検査

- セロハンテープ法

治療

- イベルメクチン0.5~0.6mg/kg
1週間おき2~3回
- セラメクチン (レボリューション猫用)
半量を2週間おき2~3回



モルモットツツキダニ ガビアハジラミ

33

足底皮膚炎

足底の細菌感染
踵に好発
肥満、運動不足、不衛生な環境

症状

- 腫脹
- 潰瘍
- 出血

治療

- 抗生物質
- ドレッシング材を用いた創傷管理
- 床材の検討



34

毛包腫/毛包上皮腫

雄に発生しやすい
巨大化しやすく、潰瘍になることもある

症状

- 臀部に好発
- 良性

治療

- 外科的摘出



35

肛門部宿便

- 高齢雄に発生
- 原因は不明
- 用手にて掻きだし、洗浄



36

尿石症

2歳半～高齢のモルモットで多発する
腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石、精囊腺結石、産内

症状

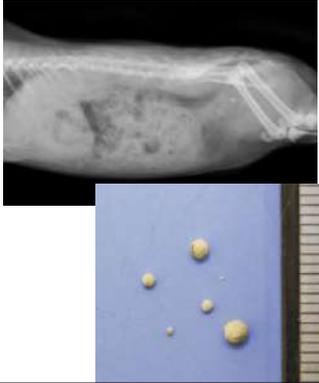
- 血尿
- 頻尿
- 排尿痛

治療

- 抗生物質
- 止血剤
- 外科的摘出

予後

- 尿道閉塞の予後は注意



37

尿道結石



38

精囊腺結石



39

乳腺腫瘍

- 雌雄で発生するが雄でよくみられる。
- 鼠径部の腫脹、腫瘤形成
- 乳頭から血様分泌物
- 自験では、1～2歳でも発生がみられる



40



41

診断名	合計	比率	雄			雌				
			症例数	最小齢	平均(歳)	最大齢	症例数	最小齢	平均(歳)	最大齢
腺管癌	88	83.8%	70	3か月	3.0	8歳	18	1歳	3.1	6歳
線維腺腫	6	5.7%	0				6	1歳	3.3	5歳
脂肪腫	4	3.8%	2	3歳	3.0	3歳6か月	2	1歳4か月	1.6	2歳7か月
乳腺異形成	4	3.8%	2	3歳6か月	4.6	6歳8か月	2	3歳	3.0	3歳
乳頭状癌	2	1.9%	1	1.0			1		2.1	
過形成	1	1.0%	0				1		5.0	
良性乳腺腫	1	1.0%	0				1		3.0	
管内性乳腺腫	1	1.0%	0				1		5.0	

42

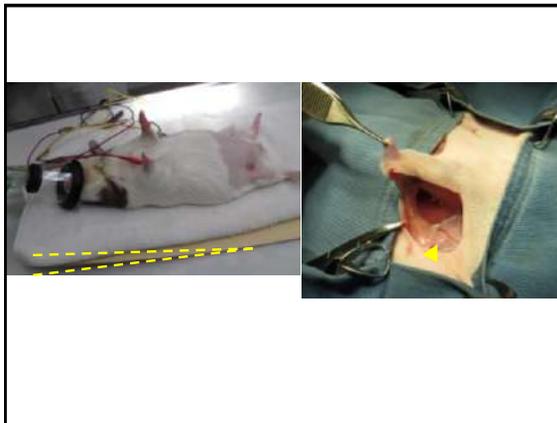


43

治療

- ・ 外科的治療
 - ・ 術前検査：一般身体検査、血液検査、X線検査、超音波検査
- ・ 術前
 - 鎮痛剤投与：メロキシカム もしくはブトルファノール
- ・ 麻酔：導入、維持ともイソフルランをマスクにて2~4%
- ・ 術後：食欲不振個体には強制給餌
通常、翌日より食欲がみられる
2-3日の入院で退院可能。

44



45



46

卵巢子宮疾患

高齢のモルモットで多発
卵巣嚢胞、子宮平滑筋腫が多い

症状

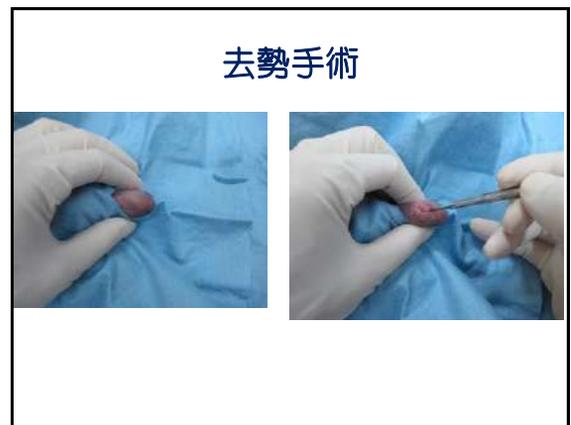
- ・ 腹部膨満
- ・ 食欲不振
- ・ 血尿
- ・ 左右両側性脱毛

治療

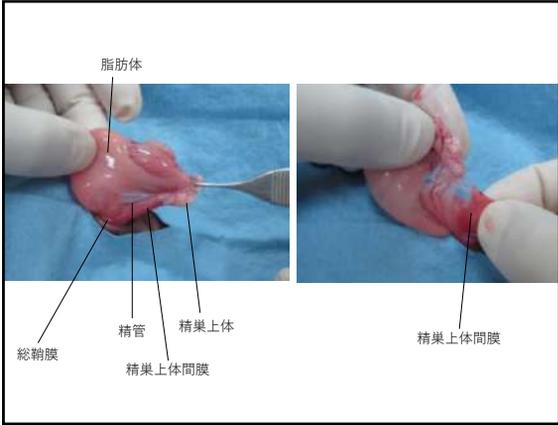
- ・ ホルモン療法？
- ・ 外科的摘出

Vet Clin North Am Exot Anim Pract, 2014;17:69-75
Ovarian cystic disease in guinea pigs

47



48



49



50



51